

# Microsoft Office2016 の種類

2017/09/24 現在

Microsoft Office のバージョンは現在 2016 が最新です。

このバージョンは 2013 までのバージョンと異なった販売体系を持っており、今後、新規にパソコンを購入したときにどの商品を選べばよいか迷ったり、商品の内容がわかりづらく先行きどのように使用できるのか疑問が残ります。

Microsoft の情報ページを基にして個人用の内容を見てみます。

個人向けの Microsoft Office は

1. パソコンにプレインストール
2. パッケージを購入してインストール
3. 利用権（サブスクリプション）を購入してインストール

の3通りがあります。

そして、Office365 というサービスが追加商品としてあります。

## 1. パソコンにプレインストール

<https://www.microsoft.com/ja-jp/office/homeuse/premium.aspx>

特徴

- ①商品名は「Office Premium」でプレインストールのみ
- ②買い切り型で永久ライセンス
- ③常に最新バージョンのオフィスソフトを利用できる
- ④1年分の Office 365 サービスが含まれる  
1年以後の更新には¥6,262/年間が必要
- ⑤そのパソコンでしか使えない  
パソコンが使用不能になったとき他のパソコンにインストールできない

種類

- ①Office Professional Premium  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote、Publisher、Access
- ②Office Home&Business Premium  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote
- ③Office Personal Premium  
Word、Excel、Outlook

## 2. パッケージを購入してインストール

<https://www.microsoft.com/ja-jp/office/homeuse/package-win.aspx>

特徴

- ①商品名は「Office 2016」
- ②個人ユーザー向け
- ③買い切り型で永続ライセンス
- ④購入したバージョンのみ利用できる  
バージョンアップされたときは新規購入が必要

今後バージョンアップ版が販売されるときにはアップグレード版はない

- ⑤Office 365 サービスはなし
- ⑥2 台の Windows パソコンで利用できる

種類

- ①Office Professional 2016  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote、Publisher、Access  
Microsoft Store でのみ販売  
¥64,584
- ②Office Home&Business 2016  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote  
¥37,584
- ③Office Personal 2016  
Word、Excel、Outlook  
¥32,184
- ④Office Professional Academic 2016  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote、Publisher、Access  
学生、教職員向けで各販売店店頭のみで販売  
¥30,024

### 3. 利用権 (サブスクリプション) を購入してインストール

<https://products.office.com/ja-jp/office-365-solo>

特徴

- ①商品名は「Office365Solo」
- ②個人ユーザー向け
- ③サブスクリプション型 (年額または月額制) で定期的な支払いが必要  
¥12,744/年 初年度分は販売店店頭、インターネットで購入できる
- ④常に最新バージョンのオフィスソフトを利用できる
- ⑤Office 365 サービスが含まれる
- ⑥Windows/Mac 問わず 2 台のパソコンで利用できる  
タブレット 2 台、スマートフォン 2 台で使える

種類

- ①Office365Solo  
Word、Excel、Outlook、PowerPoint、OneNote、Publisher、Access

### Office365 サービス (個人用)

「Office Premium」及び「Office365Solo」に追加されるサービス

その内容は

- ①1 TB のオンライン ストレージ サービス (OneDrive)  
1 TB のオンライン ストレージ サービス (OneDrive) が利用できるので、作成したドキュメントをローカル マシンと変わらない感覚でスムーズにクラウドに保存。どこからでもアクセスできます
- ②毎月 60 分間の Skype 通話プラン  
毎月 60 分間の Skype 通話プランで、友人や家族の携帯電話や固定電話に電話をかけることができます
- ③常に最新  
有効な Office 365 Solo のサブスクリプションを持っているれば、常に最新の

Office アプリケーション、機能、サービスをご利用できるので、バージョンが変わるたびに買い替える必要がない

④Office テクニカル サポート

Office 365 サービスの契約時には、Office 製品を安心して使用するための Microsoft 社 Answer Desk サポート エキスパートによる 1 対 1 のサポートが含まれています。Access のサポートを希望する場合は、コミュニティ サイト (無償) またはプロフェッショナル サポート (有償) を利用できます

どんな選択が良いか

①新規にパソコンを買う場合

マイクロソフトオフィスが必要なら、Office Premium が付属する機種を選ぶのが良い。買い切り型なので毎年料金を支払う必要はなく、最新バージョンが出れば無料で更新できるし、Office 365 サービスを 1 年間無料で利用できる。ただし、そのパソコンでしか使えないことに注意。

機種によっては Office Premium の有無を選べるものがあるが、その差額は Office Home & Business Premium の場合で 2 万円台半ばであることが多い。あとから 3 万円以上する Office Home & Business 2016 を買い足すよりも、最初からプリインストールされているパソコンを買うほうが安上がり。

②すでにパソコンを持っており、新規に又は最新版のマイクロソフトオフィスが必要になった場合

常に最新バージョンを使いたいなら、Office 365 Solo を選択するのが良い。1TB のオンラインストレージを含む Office 365 サービスも利用できる。

定期的な支払いが必要なサブスクリプション型になじめない、また最新バージョンが出ても更新せずにサポート期限終了まで使い切れれば良いという場合は、Office 2016 でいい。